

## 第46回 奈良県河川整備委員会 議事概要

1 日 時：平成20年10月24日 9時30分～12時00分

2 場 所：猿沢荘 3Fわかくさ（奈良市池之町3番地）

3 出席者

委 員 9名：朝廣佳子、池淵周一、伊藤忠通、岩本廣美、岡田伸子、  
谷幸三、中川一、中島祐子、前迫ゆり（五十音順、敬称略）

事務局 4名：奈良県 徳元河川課長 ほか

4 議事要旨

(1) 淀川水系河川整備計画について

- ・淀川流域の概要について
- ・今後の進め方について
- ・現地視察の行程について

(2) その他

5 議事内容（主な意見）

5. 1 淀川流域の概要について

- ・川は自然景観や歴史・文化との関わりが深い。川にヒメユリなどの愛らしい花を植栽すれば河川の景観が良くなり、川を皆で守らなくてはならないという川への愛着が生まれ、川も自然も美しくしようという働きかけになるのでは。
- ・生駒市高山の方では一部の河川でコンクリート護岸が多いようだが、木津川の東部、大和高原の河川は自然護岸が相当多いと思う。その割合についておおよそわかる範囲で説明してほしい。また、このあたりは、蛍が指標的な生物の一つになると思われるので、資料を追加してほしい。
- ・農地の中でも茶園は、降雨が一挙に流出してしまうと思われるが、その割合はどれくらいか。また、同じようにゴルフ場について、草地の面積の割合や排水池（調整池）が機能しているのか、資料を整理してほしい。
- ・奈良県側に比べ木津川本川は水質が悪い。これは三重県側の人口や排水、下水処理、ゴルフ場等が要因と思われる。ゴルフ場は、雨水の流出抑制はしているが、水質の処理については沈殿系だけで良いのか。代表的なところがあれば調べてほしい。
- ・瀬・淵、護岸、河川幅などの状況は、整備の視点として大切になるため、可能な限り用意してほしい。

- ・生物については内容の精査が必要であり、貴重種の判断等、生物の出し方については、一度相談してほしい。また、環境調査は春夏秋冬四季を通じた調査が必要であり、文献調査も重要。
- ・室生ダムの下流など水質の悪い所もあると思う。室生ダムではアオコも発生している。植生も変化しており、アレチウリなども確認されている。このあたりも調べてほしい。
- ・植物に関しては特に情報が少ないので、貴重種だけでなく普通種、外来種も含めて示してほしい。
- ・ダム整備前後の動植物の変化があれば示してほしい。特に、ダム整備により下流部では攪乱頻度が低下し、河床材料の変化やそれによる植生の変化も生じている。このため、粒径などの資料も示していただき、どういう川にするべきか議論したい。
- ・今後の河川整備を考える上で、人口や産業、土地利用が、市町村レベルでどのように分布しているのか、考える必要がある。
- ・皮革などの地場産業の排水による影響が過去になかったか調べてほしい。
- ・浸水が面的にどういう所で起こっているのか示してほしい。またその氾濫原因が外水なのか内水なのか、氾濫形態は破堤氾濫なのか、溢水、越水なのかもわかれば教えてほしい。
- ・現状の治水水準を理解するため、対象とする河川の流下能力を縦断的に示してほしい。また、目標とする治水水準はどう設定されるのか、主要な支川の基準点における洪水のハイドロやハイエトも示してほしい。
- ・布目ダムでは、国土交通省がダム下流に置き土を行い土砂還元をしている。結果がでていたら示してほしい。
- ・利水について、一人一日どのくらいの水が必要か等の水利用の実態について情報を示してほしい。
- ・土砂流出について、砂防設備の整備状況等について示してほしい。
- ・河川整備計画を策定する上で、どういう所にプライオリティをおくのか、県の考え方を示してほしい。
- ・原風景を残すことは街づくりにおいて非常に重要である。本当に残していきたい川はどのような川なのかを住民にできるだけ早い段階で広く周知してほしい。
- ・流域の森林面積はそれほど大きく減少はしていないが、林業従事者が減少しているにもかかわらず、針葉樹林の人工林が増加している。これは林業従事者が減っても針葉樹を植林しているということか。  
→昭和55年頃までは、ある程度木材の価格も高かったので、針葉樹の植林を行い人工林が増えていたと聞いている。最近の状況については確認する。

- ・森と川と海までのつながりを考えたときに、淀川流域全体での森林面積では大ざっぱすぎるので、集水単位の森林面積など水収支が分かるデータを示してほしい。

- ・流域内の観光、伝統、歴史、文化を考えたときに、万葉集との関わりのある所がたくさんある。河川敷に万葉集の一句を添えた看板を立ててみることで、心が癒され、自分達も川を守っていかなければならないという意識が向上するのではないか。

#### 5. 2 今後の進め方について

- ・今回の各委員の指摘事項や次回の現地視察での意見交換を踏まえて、今後議論を行う予定だが、治水・環境・景観を一回の議論でまとめ、原案骨子につなげられるのか懸念する。

→整備計画対象区間は3河川と言うこともあり、集約してまとめて議論できると考えていたが、本日、治水面、環境面でたくさん宿題を頂いており、資料を整理する中で判断し、相談させてほしい。

- ・生駒の山田川などと宇陀の方の川では随分雰囲気が違うと感じるが、そういったものをまとめて進めるというやり方がいいのか。まとめて進めてしまうと、大きい話のところで細かい川が埋もれてしまうのでは。

- ・今後の議論は少なくとも生駒のブロックと宇陀のブロックの2つに分けて、それぞれの特性を踏まえながら審議を行い、最後に整備計画として策定するときには、ひとつにまとめる形で整理するのではないか。

#### 5. 3 現地視察の行程について

- ・川の近くまで降りていってわかることもあるため、視察はできるだけ河川の近くまで行かせてほしい。

- ・白砂川と木津川の合流点では白砂川の水はきれいなのに、木津川の水は汚くコントラストがはっきりする所がある。その辺りを途中下車の地点として検討してほしい。

→現地視察は、11月21日、27日、28日の3回に分けて実施する。小雨であれば決行する予定である。詳細は後日ご案内させていただく。

以 上